第１回　火山検討会　議事録

１．開催日時：平成１８年6月２７日（火）１０：００～１２：００

２．開催場所：航空会館　Ｂ１０１会議室

３．出席者：(順不同，敬称略)

- □ 耐震設計分科会長：柴田（東大名誉教授）　（計１名）
- □ 委　員：衣笠主査（東京工業大学），中田副主査（東京大学地震研），山崎（首都大学東京）、酒井幹事（東京電力），橋本（東北電力）、武田（東京電力）、仲田（中部電力）、片川（北陸電力）、金谷（関西電力）、大野（四国電力）、伝法谷（電源開発）、岡島（ﾘｻｲｸﾙ燃料貯蔵）、三浦・土志田(電中研)　（計 14 名）
- □ 代理出席：湯浅（北海道電力・四家代理）、森野（九州電力・田中代理），
- □ 高橋（日本原燃・三和代理）　（計３名）
- □ 常時参加者：河野（電源開発），内山（ＪＮＥＳ）　（計２名）
- □ オブザーバ：花田(原技協)　（計１名）
- □ 事務局：福原、荒木（日本電気協会）　（計２名）

４．配布資料

資料 No.1-1　火山検討会委員名簿
資料 No.1-2　第１３回耐震設計分科会　議事録
資料 No.1-3　火山検討会の設置について（第１３回耐震設計分科会提案資料）
資料 No.1-4　JEAG****火山影響評価指針(仮称)　火山検討会工程(案)
資料 No.1-5　JEAG****火山影響評価指針(仮称)　のイメージ

５．議事

（１）　検討会主査の選任他

ａ．主査候補として衣笠委員が推薦され、その他候補者の推薦がないことを確認した後、挙手による決議を行った結果、代理出席を含む本日の出席委員 17 名のうち候補者本人を除く全員の賛成で、衣笠委員が主査に選出された。
また、衣笠主査より副主査として中田委員が、幹事として酒井委員が指名された。

ｂ．代理主席者３名及び常時参加者２名について主査の承認を得た。

（２）火山検討会の進め方について

ａ．冒頭に柴田耐震設計分科会長より、ＩＡＥＡで火山評価ガイドラインの基準化が進められており、日本でも基準化の必要があることから本検討会を設置し検討をお願いする旨の紹介を受け、資料 No.1-2，３により、酒井幹事より進め方について説明が行われた。

ｂ．先に検討する火山現象評価の規格策定（第一ステップ）は、耐震設計分科会の下で行うが、機電側施設への影響評価（第二ステップ）については、他の分科会が良いかどうか、その時点で再度検討することとした。

ｃ．資料 No.1-4 により検討会工程が説明され、ＩＡＥＡの基準化を１年程度と想定し、本検討会も１年程度で最終案作成を目標として、三ヶ月に一回程度の開催頻度を考えている旨の説明が行われた。

（３）JEAG 火山影響評価指針のイメージ

ａ．資料 No.1-5 により、評価指針のイメージが説明され、各委員でコメントがあれば、７月末までに武田委員に連絡することとした。

当日の主なコメントを以下に示す。

・海底火山も含むのか。

→　陸域の火山と海域の火山との区別を特に明記しておらず, 含むと考える。

・適用範囲は原子力発電所か、原子力施設か。

→　JEAG では原子力発電所とするが、国の耐震指針と同様に他の原子力施設にも準用されると考える。

ｂ．７／１４耐震設計分科会での検討方針説明は、資料 No.1-4 検討会工程と資料 No.1-5　一枚目の「基本的考え方」と「評価、調査の流れ（概要）」を基に、本日の議論を踏まえて修正したものを用いる予定であり、これに対するコメントがあれば、７／５までに武田委員に連絡することとした。

当日の主なコメントを以下に示す。

・　基本的な考え方として、IAEA 基準に拘束されるものではないが、これから作成する基準との差異については、この根拠（考え方）を説明できることが必要。

・　耐震関係では学術論文に基づきそのような技術的根拠を示すこととしている。

（４）その他

次回検討会は、８／２８（月）１０時からとした。

以　上